映画監督・佐藤真の新潟―反転するドキュメンタリー
関連の催し

予約は砂丘館へ
tel.fax.025-222-2676
E-mail sakyukan@bz03.plala.or.jp
＊fax、E-mail でお申込みの方は氏名、連絡先（電話番号）、人数を併記して下さい。

主催・会場　砂丘館
共催　新潟と会

佐藤真
『写真で読む東京』DVD 上映

9/24（日）
13：00-14：30
参加無料（予約不要・直接会場へ）
定員先着 40 名

1996 年ＮＨＫのＥＴＶ特集として放映された。「変貌する街角で―桑原甲子雄と長野重一」「大都市の光と闇―内藤正敏と荒木経惟」の２部構成で、東京と向き合った４人の写真家をとりあげた。インタビュアーは写真評論家の飯沢耕太郎。写真家牛腸茂雄の「不在」を描いた『SELF AND OTHERS』に先行する、佐藤真が「写真」と向き合った映像作品。

ギャラリートーク１
「佐藤真と写真」

9/24（日）
15：00-16：30
参加費 500 円（要予約）
定員 40 名

私が牛腸の写真に魅かれるのは、
柔らかい視線の中に
冷徹な悪意をもった視線が
立ち現れてくるからである。

飯沢耕太郎（写真評論家）

聞き手・大倉宏（砂丘館館長）


牛腸茂雄『SELF AND OTHERS』より

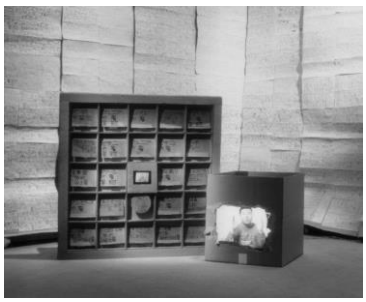
飯沢耕太郎（いいざわ こうたろう）

写真評論家。きのこ文学研究家。1954 年宮城県生まれ。1977 年日本大学芸術学部写真学科卒業。1984 年筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。1990 年季刊写真誌『デジャ＝ヴュ』を創刊し、編集長となる（1994 年まで）。『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書 1996 サントリー学芸賞）、『デジグラフィ』（中央公論新社 2004）、『きのこ文学大全』（平凡社新書 2008）、『写真的思考』（河出ブックス 2009）、『深読み！　日本写真の超名作１００』（パイインターナショナル 2012）、『現代日本写真アーカイブ』（青弓社 2015）、『きのこ漫画名作選』（Pヴァイン 2016)など。

砂丘館
旧日本銀行新潟支店長役宅
〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1
tel./fax. 025-222-2676
sakyukan@bz03. plala. or. jp
指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。
●新潟駅からのバス:浜浦町線 C2 系統又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分
●新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて 1 時間分の無料券を差し上げます。

ギャラリートーク２
「佐藤真はアートとどう向き合ったか」


映画『まひるのほし』より

袋小路に陥っている現代アートの混迷を、
シゲちゃんのアートは
見事に突き破っている。

10/4（水）
19：00-20：30
参加費 500 円（要予約）
定員 40 名

椹木野衣（美術評論家）

清田麻衣子
（『日常と不在を見つめて』編集・里山社）

大倉宏

椹木野衣（さわらぎ のい）

美術評論家。1962 年秩父市生まれ。同志社大学文学部文化学科を卒業後、東京を拠点に批評活動を始める。著書に『シミュレーショニズム』（1991 洋泉社）、『日本・現代・美術』（1998　新潮社）、『「爆心地」の芸術』（2002 晶文社）、『黒い太陽と赤いカニ―岡本太郎の日本―』（2003 中央公論新社）、『戦争と万博』（2005 美術出版社）、『美術になにが起こったか』（2006 国書刊行会）他。手掛けた展覧会に「アノーマリー」（1992 レントゲン藝術研究所）、「日本ゼロ年」（1999-2000 水戸芸術館）、「太郎のなかの見知らぬ太郎へ」（2006 岡本太郎記念館）等。『後美術論』（2015 美術出版社）で吉田秀和賞受賞。多摩美術大学美術学部教授。

清田麻衣子（きよた まいこ）

里山社主宰。編集者・ライター。1977 年福岡県生まれ。明治学院大学文学部芸術学科を卒業。卒業論文は佐藤真論。出版社勤務ののち 2012 年独立、里山社を始める。刊行した書籍に、田代一倫写真集『はまゆりの頃に 三陸・福島 2011～2013 年』、『井田真木子著作撰集』『井田真木子著作撰集第２集』『日常と不在を見つめて ドキュメンタリー映画作家 佐藤真の哲学』『山田太一セレクション 早春スケッチブック、想い出づくり、男たちの旅路』。

水と土の文化創造都市
Creative City of Water and Land - Niigata

＊この事業は新潟市からの補助金を受けて実施しています。